



「みなさんが住みたいまちはどんなまちですか。まずアイデアをたくさん出してみましょう」

高松市仏生山町のコミュニティセンターで講師の内海加奈子さん(39)が語りかける。放課後子ども教室にいた約20人の子どもたちが思いついたことを次々と付箋に記していった。

「隣の人よりも1枚でも多く書いて」。そんな内海さんのアドバイスを聞きながら、子どもたちは4人ほどのグループになって、「住みたいまち」の姿をまとめた。

伝える力 育てたい

株式会社エス (高松市) 内海 加奈子社長

「お金のないまちに住みたい。理由は、盗まれるのが嫌だし、お金がなければ物と物とを交換し友情が生まれるから」

「バス停がたくさんあるまちに住みたい。なぜなら、ショッピングモールに行くのに」



プレゼンを前にアイデアの出し方をアドバイスする内海さん(高松市)

便利だから」

内海さんは「子どもたちが大人になるころ、自分の考えをはっきりいう海外の人と意見を交わす場面がいま以上に増える。受験や就職でも面接や討論を通じて自分の考えを述べる力が重視される」と話した。

高松市出身。2001年に大阪音楽大を卒業し、ナレーターや司会の仕事を経て05年に香川に戻った。地元でテレビ番組の制作会社に勤めた後、モデルや司会者を派遣するプロダクションに移った。

高松市西ハゼ町を拠点に2016年8月設立。代表取締役の内海さんのほか、スタッフ1人。スマイル(笑顔)・スター(星のように輝く)・スペシャル(特別)のSから命名した。ビジネスや接客マナーなどの研修が中心。問い合わせは(090・8576・3470)。

マナーなどの講師の資格も取り、企業でビジネススマナーや接客対応の研修をしていると、管理職クラスの大人でも人前でうつむいてしゃべったり、ぼそぼそ小声だったり、話す力の弱さが気になった。「もっと小さいうちから訓練すればいいのに」。昨年8月に独立。今年になって小学校などへ「伝える力」を出前授業している人を取り上げた新聞記事を読み、そこで研修を受けた。

この秋、高松で60分の教室を4回おこない、子どもたちに「仏生山にずっと住みたいけん」をテーマに語ってもらった。香川で伝える力を養う教室を普及させていきたいと思っている。

「プレゼンは子どもたちが大きくなって、どんな人ともうまく仕事をしていくための技術。将来必ず必要になる力なので、もっと広めていきたい」

(江湖良二)